折に触れ　四字熟語

NO.257 〖鶏口牛後〗　けいこう　ぎゅうご

＜ 意味 ＞　大きな集団や組織の末端にいるより、小さくてもよいから長となって重んじられるほうがよいということ。「寧(むし)ろ鶏口と為(な)るも、牛後と為(な)る無かれ」の略。

＜ 出典 ＞　『史記』蘇秦伝(そしんでん)

＜ 故事 ＞　中国戦国時代、遊説家の蘇秦(そしん)が韓王に、小国とはいえ一国の王として権威を保つのがよく、強大国の秦に屈して臣下に成り下がってはならないと説いて、韓・魏・趙・燕・斉・楚の六国が合従(がっしょう)するのを勧めた故事から。

語　　釈 ：「鶏口」は鶏の口（くちばし）。弱小なものの首長のたとえ。「牛後」は牛の尻。強大なものに隷属する者のたとえ。

一　　言 ：NO.２５６に続いて、人が社会においてどう生きるか、どんな道を歩んでいくかというテーマになりました。５月 11 日付けの goo 辞書四字熟語のランクで１位になっていました。

参照文献 ：岩波書店「四字熟語辞典」

５・６・１　舛本　純